



自動車機器技術の動向と将来展望

Engineering Trends and Prospective Stories in Automotive Equipment

Minoru Ozaki

要 旨

クルマ社会は、“特段の労力を必要とせず個人の意志で高速移動できる”利便さを享受している。この利便さを後戻りさせずに、“環境問題、交通安全問題の解決”と“更なる生活の質の向上”の達成が求められている。

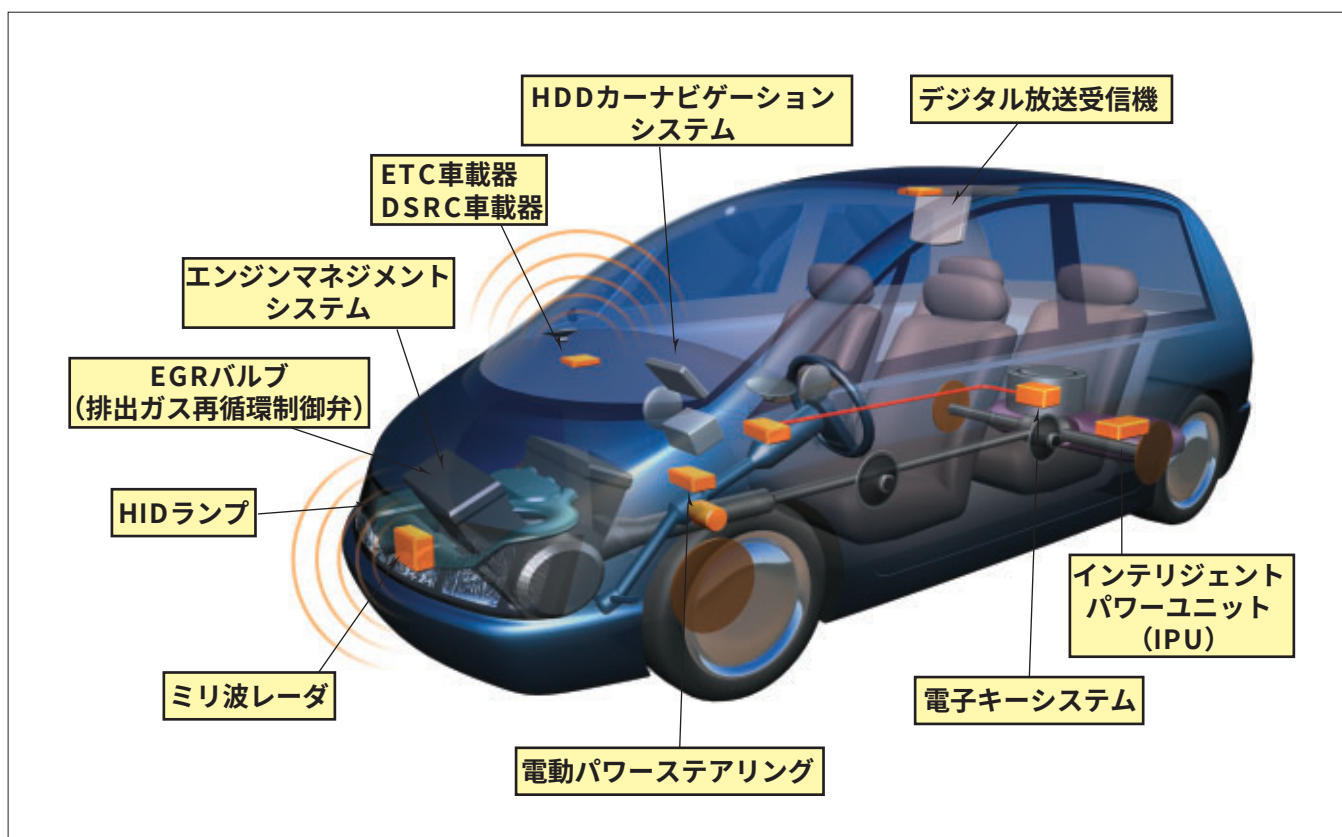
環境対策面では、効率、エネルギー密度の視点から、エンジンシステムの燃費向上と有害排出ガス低減の改良開発及びハイブリッド方式など新技術の導入が今後も進められる。

交通安全面では、救急体制の整備、事故解析や安全教育の面など総合的な取り組みが必要だが、クルマとしては、衝突時の被害を軽くする安全装備と、不注意や運転未熟による事故を未然に防ぐ予防安全装備が求められる。周辺監視センサの開発と運転負荷軽減をねらった予防安全機能の

開発が進められている。車両盗難や車上荒らし対策として、電子キーシステムなど物理セキュリティ機能の充実が進んでいる。

カーナビゲーションは、オーディオ・ビデオ機能の取り込みも含め高機能化が進んだが、今後は、装備された機能をだれでも容易に使えることが技術開発のテーマとなる。音声インタフェース技術、エージェント技術の一層の高度化が進む。テレマティクスサービスは、多機種対応や新サービスの追加拡張機能が必要となり、アプリケーションのダウンロードの可能なJava^(注1)技術の採用が進む。また、走行中DVD(Digital Versatile Disk)並みの画質でTV映像を視聴できるデジタル放送の車載受信に期待が高まっている。

(注1) Javaは、米国Sun Microsystems Inc.の登録商標である。



クルマ社会を支える先進技術

三菱電機は、“環境”安全”セキュリティ”情報・エンタテインメント”の切り口で、革新的な製品作りを目指している。